

この会報は、共同募金の配分を受けて発行されています。 令和4年6月末日 発行

やまびこ

No.265

発行 公益社団法人 埼玉県手をつなぐ育成会
理事長 高野 淑恵

〒330-0063 埼玉県さいたま市浦和区高砂2-15-3 母子福祉会館内
Tel. 048-833-0444 Fax. 048-833-0400
E-mail:saitama@teotunagu.jp
ホームページ http://www.teotunagu.jp/

定価50円 (購読料は 会費に含む)

家族支援事業部会

家族支援ワークショップ

令和4年3月18日(金)
埼玉会館5C会議室
及びZOOM

講師 吉川 かおり氏
明星大学人文学部福祉実践学科
教授・博士(社会福祉学)

家族支援部会では、オンラインにて部会を重ね今回、吉川かおり氏を御招きしての開催となりました。

子どもとの距離を見直し、「障害がある子どもがいても、私らしく生きるため」次の一歩を踏み出すことを目的に、自然と笑顔あふれる楽しい雰囲気での学習会となります。育成会の会員・会員外問わず参加いただきました。

自己紹介ゲーム・スライド学習・チェックシートを用いたディスカッションを行いました。

今回初参加と参加経験ありでグループ分けをし、参加者のおのの現状や意見・情報交換など楽しくお話ができた様子です。

二〇二二年六月末日発行(二六五号)

「84銭の福祉?」

公益社団法人 埼玉県手をつなぐ育成会
理事長 高野 淑恵

平素よりご支援ご協力いただいております皆様にご心より御礼申し上げます。また、医療従事者の皆様により感謝申し上げます。

コロナが少し下火になってきました。このまま、インフルエンザ並みになってほしいものです。

さて、今号は「共生社会」についてです。この言葉を耳にするようになってから十年以上になります。

「共生社会」…とても耳に心地良い言葉です。知的障害児者の権利擁護を命ある限り追いついていく私たちにとっては、まさに悲願とも言える理念です。障害のある無しに係わらず共に一つの社会の中で、互いの多様性を認め合い受け入れあつて生きていきたいと思います。

あくまでも「実現すれば…」の話ですが、少なくとも私たちはこの十年、この理念を現実化するべく懸命に努力してきました。そこで先ず必須アイテムは「グループホーム」。

多様性を認め合い受け入れ合うの

初めてのハイブリッド開催で参加者のネット環境が途切れないように、準備する側は大変緊張感のある時間となりました。

(参加者の声)

★コロナ禍で環境が変わり、課題や悩むことがたくさんあったので、ヒントとなることができました。グループホームの職員として働き、自分の子ども以外にも、どうかかわってよいかわからないことばかりでしたので考える機会としてありがたかったです。

★子どもの問題行動が私に問題だからと思つて自分を追い込んでいたことに気づきました。

★自由な気持ちで話ができ、リラックスしてのとても楽しい時間となりました。

★学齢期の間が重要ということ、正に今が大事。親子でステップアップするチャンスだと思いました。

★経験を重ねた先輩ママの「自立の型にはめることではなく、その人を認めることではないの?」の言葉が刺さりました。

★コロナ感染症が終息し完全対面のワークショップができるということです。

「グループホーム」を街なかで作りますよ、と国をはじめ各行政機関は提唱しました。あくまでも「提唱」です。「作つてあげます」では絶対にならないのです。それでも、知的障害を持つて、いつかは親とも別れて生きていかなければならない子を持つ親の私たちは、涙なくしては語れない苦労の果てに(嘘です、泣いてません)、漸くグループホームを1棟立ち上げました。ところが、立ち上げてみて分かったことは、運営にとんでもなくお金が掛かるということです。言い換えれば、運営に係る給付金が少な過ぎるのです。虐待の無いホーム、幸せに暮らせるホーム、障害基礎年金だけで暮らせるホーム等々、健全で良質のホームを目指せば目指すほど赤字になります。グループホームの定義は「365日開所」の筈ですが、それなのに、土曜日祝祭日の日中は「基本報酬」しか給付されません。つまり「日中支援加算」が付かないのです。国は、「週末は親元に帰ればいいでしょう、移動支援を利用して遊びに行けば良いでしょう」と考えているのです。「共生社会」を語る時に必ず「本人の意思を尊重しよう」と言いますが、休日には1日中外で遊んでほしい、というの、本人の意思を尊重していません。休日はホームで好きなようにまったり過ごしたい人も

あとながき

早々と梅雨入りしうっとうしい時季です。

マスク生活も長くなりました。会話が減ることで口回りの筋力が低下し、誤えんのリスクが増えるそうです。意識が必要ですね。

コロナ禍で制約されますが、前向きな気分です。

《広報部 大森》



「84銭」とは何ですか?

令和4年現在の社会で流通してない貨幣です。あるなら見せてほしいです。要するに、知的障害者の1日の生活を存在しない金銭感覚で捉えている、つまり真剣に考えていないということ。いちばんお金が掛かるのは、結局、「家族で頑張りなさい」ということなのですね。

最低賃金だけが上昇し、報酬額は上がらないで運営が成り立つ訳がありません。障害基礎年金も上がるどころか少しずつ減額されています。私たちは企業系のホームのように高額な利用料を取ることはできません。「共生社会」が「絵に描いた餅」でないのなら、ホームに「日中支援加算」をください!!

もちろん、銭ではなく円で!!

未来あんしんサポート NEW 2022年1月、「定期支払金付プラン」が新登場 「つかえる楽しみ」と「このせる安心」をお届けします

未来あんしんサポート

「知的障がい」や「自閉症」等の障がいのあるお子さまのために「親なきあと」をサポートするご提案です

障がいのあるこの子が お金の管理をできるか心配... この子が経済的に 困らないようにしてあげたい。 自分がまだ元気なうちは、毎年うけとる お金を使ってこの子と一緒に楽しみたい

「生命保険」と「信託」が「親御さまの想い」を 確実に未来へのこします

お問合せや資料のご請求はこちらへ 未来あんしんサポートに関するお問い合わせ ジェイアイシー生命保険信託相談ダイヤル 通話料 無料 0120-580-503 受付時間:月~金(祝日・年末年始を除く)9:00~17:00

「未来あんしんサポート」は、(株)ジェイアイシーがご提案する生命保険と生命保険信託をあわせたサービスの総称です。

●未来あんしんサポートについて、詳細は「未来あんしんサポート リーフレット」をご覧ください。●(株)ジェイアイシーは「個人情報保護方針」と題するプライバシーポリシーを策定し、これに基づいて個人情報の取扱いを行っています。その内容は、(株)ジェイアイシーのホームページにてご確認ください。●当資料は、2022年1月1日時点のお取扱い内容に基づき作成しています。

株式会社ジェイアイシー 本社 〒160-0023 東京都新宿区西新宿3-2-11 新宿三井ビル2号館2F ホームページ www.jicgroup.co.jp

所属信託会社 みずほ信託銀行株式会社

生命保険引受保険会社 第一フロンティア生命保険株式会社

MAS-A-220103

令和4年度 予算書

令和4年4月1日から 令和5年3月31日まで

(単位:円)

Table with 4 columns: 科目, 今年度予算額, 前年度予算額, 増減. Rows include 収入の部 (I) and 支出の部 (II).

Table with 4 columns: 科目, 今年度予算額, 前年度予算額, 増減. Rows include 保険料支出, 食糧費, 支払手数料, etc.

Advertisement for '手をつなぐがん保険' (Hand-to-Hand Cancer Insurance) by Zenryo Kyosei Co., Ltd. Includes contact info and benefits.

令和3年度 収支計算書

令和3年4月1日から 令和4年3月31日まで

(単位:円)

Table with 4 columns: 科目, 予算額, 決算額, 差異. Rows include 事業活動収支の部 (I) and 事業費支出 (2).

Table with 4 columns: 科目, 予算額, 決算額, 差異. Rows include 交際費支出, 役員報酬支出, 給料手当支出, etc.